



ツナガル×防災×まちづくり 防まちこもんず

地域と一緒に進める川崎市の防災まちづくりを伝える広報誌

「普段まちで会ったときに何気なく挨拶や世間話ができるような関係。『要援護者支援』という枠組みに捕らわれず、そういった繋がりがもっと広がっていけば、ご近所どうし地域での見守りに繋がっていく。」そう話すのは観音町

町内会の早川会長です。川崎区観音町内会では、令和3年から3年間防災まちづくりを行い、要援護者支援の体制づくりやマイタイムライン・マイ避難ルート、多様な世代に参加いただくための防災×コミュニティイベントなどを行って

きました。災害時要援護者避難支援制度とは、災害時に支援を希望する方から申請していただいた名簿を基に、地域で避難体制づくりを進めていくことです。会長は以前から名簿が手元にあるものの、まず何から進めればよいのか分からない上に、コロナ禍の影響や普段の町会活動だけでも忙しく、町会として思うように活動できない状況を歯がゆく思っていました。そこで、まずできることの第一歩として、地域の見守りの現状と名簿の状況を民生委員と共有しながら、協力して



(上図)

観音町内会会長/
早川佳伸さん
要援護者のご自宅
に訪問されている
ときの様子

(左図)

訪問結果を共有し
ている様子

訪問を始めました。どんなお話ができるか、初めての訪問に緊張しながら対象の方のご自宅に伺いましたが、実際にご本人やご家族とお話してみると、既に自分に合った形で災害対

観音町内会は、川崎区の国道132号線、大師公園の南側、川中島と大師公園前の中間に位置する町会です。表紙の写真は、会館前の公園で撮影しました。町会の皆さんによってお掃除や色彩豊かな季節の花を植え、綺麗にお手入れされています。





策を行っている方がほとんどでした。また、要援護者の方お一人おひとりに必要な手助けが異なり、訪問した方も真剣に耳を傾けます。

地域で見守り合える関係性づくり

訪問後には町会と民生委員などで意見交換を行い、今後の要援護者支援の方針が決まりました。それは、緩やかに地域で見守り合える関係性づくりを進めていくということです。災害時は多くの方が被災者になるため、要援護者の方の元にすぐ駆けつけることは難しい

です。過去の大災害を見ても、家族や近隣の方に救助された方の割合は多く、いざという時にご近所どうしで助け合える関係性ができるよう、普段からの繋がりが何より大切です。同じ地域に住む方どうしが、町会活動を通して顔見知りや友達をつくり、緩やかに見守り合える関係性をつくることを目標に活動を進めていくことになりました。

地域の災害リスクや一人ひとりに合った安全な避難先と避難ルートを作成するためのマイタイムライン・マイ避難ルート、地域の防災訓練、防災情報を学べるバザーなど、普段町会活動に馴染みのない方でも楽しく

参加しやすいイベントも開催しました。無理のない範囲で、要援護者の方にも町会活動やイベントを知り、参加いただけるよう、再度の訪問と合わせて開催のお声がけをしました。今後は黄色い「無事ですカード」を使った安否確認訓練も併せて継続的に実施し、ご近所どうしで見守り合える関係性が作れるよう、活動を続けていきます。

防まちこもんず
2024年3月発行 第5号
発行/編集 川崎市まちづくり局市街地整備部防災まちづくり推進課
TEL.044-200-3012